平成28年度 第３回 新しい東北 交流会 in 仙台　開催報告

平成29年2月9日（木）
せんだいメディアテークで開催しました！

メインテーマ：「これからの担い手」づくり

この度、復興庁では、「新しい東北」の創造と様々な取組の持続に向けて、今後の活動の主体となる「担い手」に焦点を当て、これからの担い手づくりに向けた方策や課題について考える『新しい東北』交流会を仙台で実施しました。

当日は、「新しい東北」復興・創生顕彰等顕彰式や「企業による復興事業事例」の顕彰式、パネルディスカッション、復興支援インターン取組発表、Support Our Kids取組発表、「震災と意志について－復興のあとに残すもの－」等の多彩な企画を実施し、約400名の皆様にお越しいただきました。

※今回の交流会の様子は協議会のウェブサイト（http://www.newtohoku.org/works_report)および
Facebookページ（https://www.facebook.com/newtohoku）でも紹介しています。

オープニング

西脇復興庁事務次官の開会挨拶に続き、宮城県 伊東 昭代震災復興・企画部長からご挨拶をいただきました。

「新しい東北」復興・創生顕彰等 顕彰式

「新しい東北」復興・創生顕彰等 顕彰式では、被災地で進む「新しい東北」の実現に向けて、大きな貢献をされている個人及び団体を顕彰しました。選定委員である藤沢 烈氏（一般社団法人RCF 代表理事）からの挨拶に続き、復興・創生顕彰の個人部門として３件を、団体部門として７件の皆様をそれぞれ顕彰しました。また、「新しい東北」復興功績顕彰として、10件の皆様を顕彰しました。
（被顕彰者の詳細については選定結果発表のホームページもご覧ください）
（https://newtohoku.secure.force.com/kenshou/）

被顕彰者を代表して「新しい東北」復興・創生顕彰・個人部門に選定された岩手県立釜石高等学校の寺崎 幸季氏から、「新しい東北」復興功績顕彰に選定されたツール・ド・東北2016実行委員会・ヤフー株式会社 上級執行役員 コーポレート統括本部長の本間 浩輔氏よりそれぞれスピーチが行われました。また、会場入り口付近には、「新しい東北」復興・創生顕彰等の概要と被顕彰者の紹介パネルを展示しました。

「企業による復興事業事例」の顕彰式

「企業による復興事業事例」の顕彰式では、被災地の事業者による新たな挑戦や課題の克服の取組のなかから、特に産業復興のモデルとなることが期待される事例を顕彰しました。選定委員長である大滝 精一氏（東北大学大学院 経済学研究科 教授）からの挨拶に続き、平成28年度に発行した「産業復興事例30選 東北発私たちの挑戦」の事例集掲載企業から選定された６社の紹介と顕彰を行いました。

被顕彰者を代表して、株式会社ラポールヘア・グループ 代表取締役の早瀬 渉氏からスピーチが行われました。こちらも会場入り口付近に「企業による復興事業事例」顕彰等の概要と被顕彰者の紹介パネルを展示しました。

【パネルディスカッション】

『これからの東北を支える担い手づくり』をテーマに、中村 志郎氏（特定非営利活動法人アスヘノキボウ 人材事業責任者）、杉田 剛氏（仙台市 経済局 産業政策部 地域産業支援課 課長）、油井 元太郎氏（MORIUMIUS 代表）の3名のパネリストの方々と、信岡 良亮氏（株式会社アスノオト 代表取締役）をモデレーターに迎え、東北で続く新たなチャレンジや取組を継続的に続けていくための仕組みづくりについて議論していただきました。

パネリストからは、震災後6年近くが経過する中で、復興や様々な取組にかける想いをいかに次世代につなげるか、２代目3代目をどのように育てていくかが重要であり、また大きな課題であるとの意見で一致しました。さらに人を育てられる人材をいかに育成するかが課題であることや、起業家が起業家を育てて雇用を創出していくモデルづくりが必要との意見も挙げられました。また、復興の先に控える少子高齢化という大きな課題にも今後どのように立ち向かうか、地域として考えていく時期であるとのコメントもありました。

復興支援インターン 取組発表

大学生が被災地企業での職業体験を通じて、経験や学んだことを全国に発信し、風化・風評被害の防止と被災地産業の振興を目的とする「復興支援インターン」を契機に新商品の開発につながった取組を発表いただきました。石巻市の株式会社ヤマトミにインターンを行った学生が、石巻の真穴子を使用した介護食メニューを開発し、それをメーカーである森永乳業グループに提案し、商品化された先進的な事例でした。

登壇者は神村 美帆氏・河野 呼春氏（いずれも名古屋学芸大学 管理栄養学部 管理栄養学科）、武田 安弘氏（森永乳業株式会社 研究本部 健康栄養科学研究所長）、千葉 雅俊氏（株式会社ヤマトミ 代表取締役）、千葉 尚之氏（株式会社ヤマトミ 常務取締役）で、被災地での活動を契機に産学官共同のプロジェクトが組まれ、被災地産業の振興につながった取組を発表いただきました。会場では開発された商品の試食も行われました。

神村氏と河野氏からはインターンでヤマトミ社にお世話になった縁が高じて、介護食の商品化につながったことがとても幸福であるとのコメントがありました。

Support Our Kids 取組発表

海外ホームステイや異文化交流による子ども達の自立の後押しをする取り組みを通じ、子ども達が帰国後に立ち上げた復興プロジェクトについて発表いただきました。Support Our Kidsは「東日本大震災被災児の自立支援」「復興のリーダーづくり」を目的に発足し、世界各国の大使館や外務省と連携して海外ホームステイを通した被災児の自立心育成活動を実施しています。これまでに海外に渡った子ども達は300名を超え、帰国した子ども達による復興プロジェクト「HABATAKI」を始動しています。

清澤 環氏（社会人）、阿部 日向子氏（大学生）、小金澤 彩氏（大学生）にご登壇いただき、新山 明美氏（Support Our Kids実行委員会企画委員 兼東北事務局長）を進行役に、それぞれこれまでの取組や想いについて発表いただきました。３名による取組発表はネパール大地震で被災した子ども達を東北にホームステイに招いた模様を撮影した映像を背景に進められました。このネパールの子ども達との交流を通じて、「様々な人の温かみを感じた」「やる気次第で何でもできる」「自信がついた」等の真摯な言葉が語られ、若者の思いが伝わる取組発表となりました。

「震災と意志について－復興のあとに残すもの－」

みやぎ連携復興センターとの共同企画として、自分たちの意志で「つながり」や「分かち合い」を大切にし、様々な取組を生んだ活動に焦点を当てて議論を行いました。また、震災後の意志のはたらき等に迫り、今後の活動の継続や展開に向けて「復興のあとに残すもの」を議論しました。

パネリストには三浦 隆弘氏（農家・なとり農と自然のがっこう主宰）、栗林 美知子氏（NPO法人ウィメンズアイ 事務局長・かもしか文庫主宰）、桃生 和成氏（一般社団法人Granny Rideto 代表・つれづれ団団長）の皆様にご登壇いただき、パネルディスカッション形式で発表いただきました。

パネリストからは、「復興の後に残すものは地域ごとに異なるため、各地域の特性を考慮し、地域の実情に応じた答えを出していくことが必要である。」との意見が出ました。

懇親会

今回、交流会企画にご登壇された方や、ご参加いただいた方々との懇親会を実施し、これからの担い手づくり等の意見交換・歓談が行われました。

懇親会においては「新しい東北」復興・創生顕彰・団体部門に選定された長谷川 琢也氏（一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 事務局長）、「新しい東北」復興功績顕彰に選定された二宮 雄岳氏（釜石リージョナルコーディネーター協議会 統括マネジメント）、「新しい東北」復興・創生顕彰・団体部門に選定された和田 智行氏（株式会社小高ワーカーズベース 代表取締役）の３名からスピーチをいただきました。

また、会場では「新しい東北」情報発信事業の採択事業である「東北風土マラソン＆フェスティバル」実行委員の田中 直史氏より、東北の素晴らしい食材を活かした「ランメシ」各種の紹介と試食も行われました。

～ご協力・ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました～

お問合わせ　※当交流会の事務局運営については、株式会社JTBコーポレートセールスが受託しております。　新しい東北　検索　いいね!

「新しい東北」交流会事務局（株式会社JTBコーポレートセールス　東京中央支店内）　担当　西田、安海（あずみ）

E-mail:nt-info@bwt.jtb.jp　**WEBサイト**: http://www.newtohoku.org/

TEL: 03-6737-9292　（平日9:30~17:30）※土曜、日曜、祝日 は休業となります。**Facebook**: https://www.facebook.com/newtohoku

主催： 東北 官民連携推進協議会（事務局：復興庁）　復興庁